



オルタナティブ
文明論 第1回

歴史は、どのように発展しているのか

これから、我々人類の文明は、どこに向かうのか。

その問いに対する答えを得るためには、まず、歴史というものが、どのような法則で発展しているかを学ぶ必要がある。

そして、その法則を教えてください。一つの哲学が、ドイツの哲学者、ゲオルク・ヘーゲルの「弁証法」である。特に、彼の弁証法の主要なテーゼ、「事物の螺旋的發展の法則」は、我々に、歴史の發展のプロセスについて、深い洞察を与えてくれる。

では、それは、いかなる法則か。それは、世の中の物事は、直線的な發展をするのではなく、あたかも「螺旋階段」を登るように發展するという法則である。

すなわち、螺旋階段を登る人物を、横から見てみると、上に登っていき、發展しているように見えるが、上から見ていると、螺旋階段を一周回り、元の位置に戻ってくる。過去への回帰と古き価値の復活が起こるのである。ただし、そのとき、この人物は、かならず一段、高い位置に登っている。

言葉を換えれば、歴史においては、その發展とともに、かならず「古く懐かしいもの」が復活してくる。ただし、「新たな価値」

を伴って復活してくるのである。

この法則の事例は、枚挙にいとまがない。例えば、いま、ネット革命によって世界中に広がっている「オークション」(競り)

という購買方式。これは、昔、世界中の市場(いちば)の片隅に存在していた。しかし、効率化と合理化を追求する資本主義の發展の中で、統一価格での商品販売が主流となり、この方式は、ひとたび市場から姿を消していった。それが、ネット革命によって復活してきたのである。それも、単なる復活ではない。かつては数百人相手にしかできなかった競りが、いまでは、数百万人相手にできるようになったのである。

また、ネット革命で急速に広がっている「Eラーニング」は、実は、昔懐かしい「寺子屋」の復活でもある。集団教育ではなく、自分の能力と興味に応じて好きなペースで学べる方式の、高度な形での復活である。

さらに、現在、世界中で復活しているリサイクル運動も、かつて人類全体が貧しく資源が貴重であった時代のリサイクル運動ではない。現在のリサイクル運動は、資源節約だけでなく、地球環境の保全をめざした、新たな次元での復活に他ならない。

では、もし歴史が、この螺旋的發展の法則に従うならば、これから人類の文明は、いかなる文明に向っていくのか。

その答えは明白であろう。古く懐かしい文明の世界観が、新たな価値を伴って、復活してくる。

すなわち、人類の文明の黎明期を担った東洋文明。自然との共生と、生命論的世界観を中心としたこの文明は、歴史の舞台において、科学技術の發達と機械論的世界観によって力を得た西洋文明に、その主役の座を明け渡していった。しかし、これから、その西洋文明の機械論的な世界観の限界を超越、古い東洋文明の生命論的な世界観が、新たな価値を伴って復活してくる。

そのことは、例えば、地球環境問題の深刻化の中で、地球というものを一つの巨大な生命体と見る「ガイア思想」に多くの人々の注目が集まることや、仏教思想の「山川草木国土悉皆仏性」に影響を受けた「ディープ・エコロジー」の思想が広がっていくことに象徴されている。

しかし、もし東洋文明の世界観が復活するならば、その「新たな価値」とは、何か。そのことを、次回以降、述べていこう。

Profile

(たさかひろし)74年、東京大学卒業。81年、同大学院修了。工学博士。87年、米国バテル記念研究所客員研究員。90年、日本総合研究所の設立に参画。取締役を務める。00年、多摩大学大学院教授に就任。同年シンクタンク・ソフィアバンクを設立。代表に就任。tasaka@sophiabank.co.jp www.sophiabank.co.jp

ヘーゲルの弁証法について詳しく知りたい方は、著者の『使える弁証法』(東洋経済新報社)を。

田坂広志

多摩大学大学院教授
シンクタンク・ソフィアバンク代表
社会起業家フォーラム代表